談話室

マレーシア
—“Look East Policy”は活かせるか—

マレーシア日本国際工科院,
マレーシア工科大学教授；
九州大学名誉教授；
（九州大学特任教授） 桑野範之

2012年9月にマレーシア日本国際工科院（MJIIT: Malaysia-Japan International Institute of Technology）の教授としてクアラルンプール（KL）に赴任しました．こちらに着いてから日はまだ浅いですが，感じたことや考えたことなどを記します．

MJIIT-1：30年前にマハティール前首相（マレーシア）が「日本のいいところを学ぼう」という「東方政策（Look East Policy）」を提唱したことに始まります．これを受けて，高専への学生派遣等々が行われ，10年ほど前にマハティール小泉会談において日本式教育を行う大学の設立が合意に至りました．その後は紆余曲折がありましたが，2011年にマレーシア工科大学（UTM: University of Technology Malaysia）の新しい学部・大学院としてスタートしました（**図1**）．現在は，電子システム工学（ESE），機械精密工学（MPE），環境グリーン工学（EGT），技術経営工学（MOT）から成っており，それぞれに日本から派遣されてきた教授陣が配置されています．その人選等々は約25大学から成る日本大学コンソーシアム（JUC）が担当しています．MJIITの詳細はホームページ（http://www.mjiit.utm.my/, http://mjiit.utm.my/）などを御覧ください．

マレーシア：マレーシアは退職後に長期に滞在する国として人気ナンバーワンとの報道がなされています．確かに町全体は綺麗ですしインフラも結構揃っています．治安についても「引ったくり」の類は少なくありませんが，身の危険を感じるほどではありません．住人も様々で，マレー系，中国・台湾系，インド系とその他（ヨーロッパ，日本，韓国など）の人たちは，自分たちの出身にはプライドをもって，個々の慣習に合わせた生活をしています．それぞれが互いに分離しているのではなく，調和を図りながら多様性豊かな社会を形成しています．マレーシアはイスラム教の国ですが，クリスマス（12月25日）は「国民の休日（national holiday）」です．12月の後半になるとショッピングモールでは大きなクリスマスツリーが飾られてクリスマスソングが鳴り続き，いろいろな服装の人たちで賑わいます（**図2**）．これは，自分と異なるこ

図1　MJIIT（マレーシア工科大学　KLキャンパス）の建物．

図2　パビリオンショッピングモールのクリスマスツリー．

と（人）の存在を普通のこととして認め合っていることの表れと思われます．

イスラム教徒の女性の多くはヘマールと呼ばれる布で頭から胸辺りまで覆い，ジバブと呼ばれる長いワンピースを着ていますが，カジュアルな場所ではジーパンなどの服装にヘマールだけという若い人も少なくありません．今やヘジャブ（ヘマールとジバブ）もカラフルな模様入りのものが普通で，みんな結構おしゃれを楽しみ，かつ競っているようです．純白（おそらくシルク）のヘマールに高価な装飾（おそらくダイヤ）を付けた人（UTMの要人）も見ました．車の運転が禁じられているという中東の国とは違って，女性もごく普通に車を運転します．ヘジャブを着て車やバイクで疾走し渋滞の車列のわずかな隙間に果敢に（無理矢理入り）割込む姿には，間違った先入観から来る意外さを通り越して爽快ささえ感じます．工学系であるMJIITの教員，学生でも女性の割合は結構多く，大学の会議/授業で自分の意見を強く発言するのは女性教員/女子学生の方です．それでも，町で道を尋ねると，とても親切に道案内をしてくれるし，地下鉄では席を譲ってくれます．

MJIIT-2：日本の大学と大きく異なることは「研究室が付いてない」ということです．実際，着任したてでは，居室（デスク，椅子，書棚，電話付き），小さな文具類．PCと白黒プリンター（PCが来たのは着任の3カ月後，プリンターはまだ来ていません）だけで，学生を教育するスペースも研

究費もありません(私の場合は九大に残した奨学寄付金(いわゆる委任経理金)をこちらに移算して自分のファンドにしました)．これでは継続的な人材育成と学術・技術の伝承・発展はできないということで，日本の講座制の良いところをシステムとして根付かせることがMJIITのミッションの一つです．とはいえ，日本の制度をそのまま押しつけてもうまくいくはずはなく，現在はマレーシアサイドの教員(そのほとんどは日本で教育を受けた経験あり)も含めMJIIT全体で協議を進めている段階ですが，そこではkohza, senpai–kohaiといった日本語が飛び交っています．

東方政策：2012年10月10日に東方政策30周年記念会議「The Look East Policy –A New Dimension–」があり，MJIITの日本派遣の教授は関係者と云うことで出席しました．ナジム首相の基調講演，ムスタパ国際通商大臣の講演などがあり，そこではMJIITの設立を大きな成果の一つとして紹介されました．しかし，日本政府側からは野田総理大臣(当時)挨拶の代読だけでしたので，少々寂しい印象を受けました．ムクリス国際通商副大臣主催夕食会・講演会ではマハティール前首相も元気な姿をお見せになり，力の籠ったお話をされました．そこで「日本から学ぶべきことのひとつはdisciplineだ」と明確に述べられました．「工夫を凝らしてより良いものに仕上げていく姿勢が，洗練された製品を生み科学技術を高めていく持続力を生む」ということです．このことは研究・教育でも同じことが言えます．しかしながら，現在ではマレーシアの最上指導層以外はそのようには理解していないようにも見え，また日本自体がこのことを忘れかけているのではないかと危惧します．云いかえると，彼らは持続性や全体のレベルアップよりも現実的な成果がすぐに出てくることを求め，日本側も最近の経済状況変化に対応しきれずにいて，両者には少し温度差が出てきている気がします．KLでは伊勢丹，イオンなどの日系デパート・スーパーが進出していますし，日本の電気製品や自動車，農産物などの評価・人気は今でもまだまだ良好です．この優位さを保ち発展させ，もう一度Look–Eastの目標たるには，上述の「日本の強さ」を単なる自己満足でなく，真に日本の強さとするための具体的な戦略と覚悟が必要だと強く感じました．

(2013年1月8日受理)

(連絡先：University of Technology Malaysia(UTM), International Campus, Jalan Semarak 54100 Kuala Lumpur, Malaysia)